

三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成20年度第3四半期決算ハイライト

平成21年2月6日

● 損益サマリー	2
● B/Sサマリー	3
● 貸出金・預金	4
● 貸出資産の状況	5
● 保有有価証券の状況	6
● 保有証券化商品等の状況	7
● 20年度業績／配当金予想	8

＜本資料における計数の定義＞

連結 : 三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
2行合算 : 三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

● 業務純益

- 資金利益は海外貸出収益の増加、外貨調達コストの減少を主因に増加
- 役務取引等利益は市場環境の悪化により、投信・保険、証券手数料、不動産を中心に減少
- 証券化商品関連損失約▲1,790億円計上も、債券関係損益の増加等もあり、「特取+その他業務利益」はほぼ横這い
- 営業費は、統合関連費用による増加の一方、経費削減の進捗等もありほぼ横這い

● 与信関係費用

- 国内外における取引先企業の業績悪化を反映した格付の見直しなどに伴い増加

● 株式等関係損益

- 株価下落に伴う株式等償却約▲4,000億円により大幅な損失を計上

● 四半期純利益

- 与信関係費用、株式等関係損益の悪化を主因に赤字計上

<連結P/L>

(単位:億円)

	19年3Q	20年3Q	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	25,599	24,928	▲670
2 うち資金利益	13,859	14,101	241
3 うち役務取引等利益	7,961	7,228	▲732
4 うち特定取引利益+その他業務利益	2,657	2,669	11
5 うち国債等債券関係損益	▲53	796	849
6 営業費	15,745	15,729	▲15
7 実質業務純益	9,854	9,198	▲655
8 与信関係費用*1	▲3,344	▲4,344	▲999
9 株式等関係損益	369	▲3,263	▲3,632
10 その他の臨時損益	▲228	▲452	▲224
11 経常利益	6,650	1,139	▲5,511
12 特別損益	▲329	▲32	296
13 法人税等+法人税等調整額	2,627	903	▲1,723
14 四半期純利益	3,146	▲420	▲3,567
15 与信関係費用総額*2	▲3,344	▲4,335	▲990
16 うち2行合算	▲1,867	▲2,916	▲1,048

*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額
+与信関係費用(臨時損益内) (▲は費用)

*2 与信関係費用総額=与信関係費用+偶発損失引当金戻入益(与信関連) (▲は費用)

<ご参考>

(単位:円)

17 1株当たり利益	30.01	▲4.36	▲34.37
18 連結ROE *3	6.55%	▲0.98%	▲7.53%

*3

(四半期純利益×4/3)－非転換型優先株式年間配当相当額

÷{(期首連結株主資本合計－期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定)

+ (第3四半期末連結株主資本合計－第3四半期末発行済非転換型優先株式数×払込金額

+第3四半期末為替換算調整勘定)÷2

×100

●貸出金

- 国内法人貸出の増加やアコム新規連結等により20年9月末比増加

●有価証券

- 国債、外国債券の増加により20年9月末比大幅な増加

●預金

- 為替要因等もあり海外店預金を中心に20年9月末比減少
個人預金は引続き増勢基調

●開示債権

- 20年9月末比では、開示債権の減少、総与信の増加により、開示債権比率は1.17%に低下

●その他有価証券評価損益

- 株式含み益減少により評価益はマイナスに

<連結B/S>

(単位: 億円)

	20年3月末	20年9月末	20年12月末
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	887,976 [885,388]	906,762 [904,451]	933,434 [931,250]
2 うち国内法人貸出*1	494,501	485,549	508,082
3 うち住宅ローン*1	173,582	172,350	172,256
4 うち海外貸出*2	176,704	204,737	199,180
5 有価証券(銀行勘定)	408,516	386,713	455,092
6 預金	1,213,073	1,197,983	1,181,281
7 うち個人預金(国内店)*3	625,947	626,722	635,703
8 国内預貸金利回り差 (2行合算)	(19年下期) 1.48%	(20年上期) 1.44%	(20年3Q) 1.44%
9 金融再生法開示債権*1	10,585	12,182	11,234
10 開示債権比率*1	1.15%	1.28%	1.17%
11 その他有価証券評価損益	10,048	2	▲6,821

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオン・バンク・コーポレーション+BTMU(中国)

*3 20/9末より個人預金に関する集計方法を一部変更。現在の集計方法での20/3末における個人預金残高は61.8兆円

貸出金・預金

【連結】



●貸出金残高は93.3兆円に増加
(20/9比+2.6兆円)

<20/9比増減の主要因>

- 国内法人貸出 +2.2兆円
- 海外貸出*1 ▲0.5兆円
- アコム連結 +1.3兆円

*1 海外支店+ユニオン・バンカル・コーポレーション+BTMU (中国)

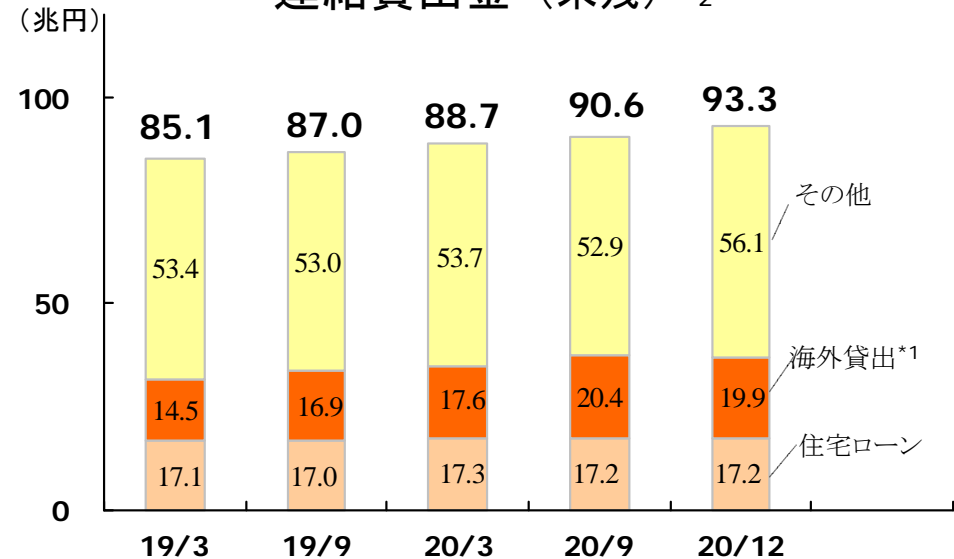
*2 銀行勘定+信託勘定

●連結預金残高118.1兆円
(20/9比▲1.6兆円)

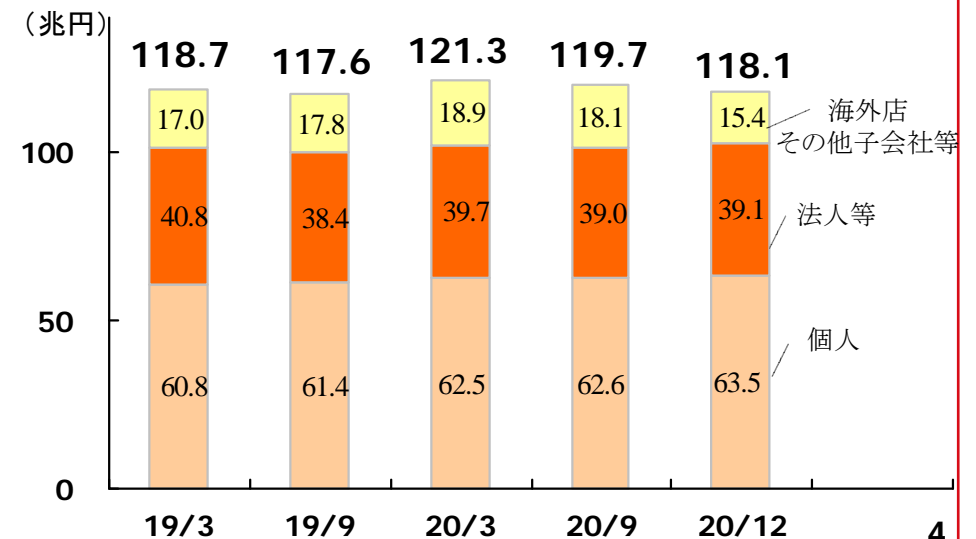
<20/9比増減の主要因>

- 個人預金 +0.8兆円
- 法人等預金 +0.1兆円
- 海外店預金 ▲2.3兆円

連結貸出金 (末残) *2



連結預金 (末残)



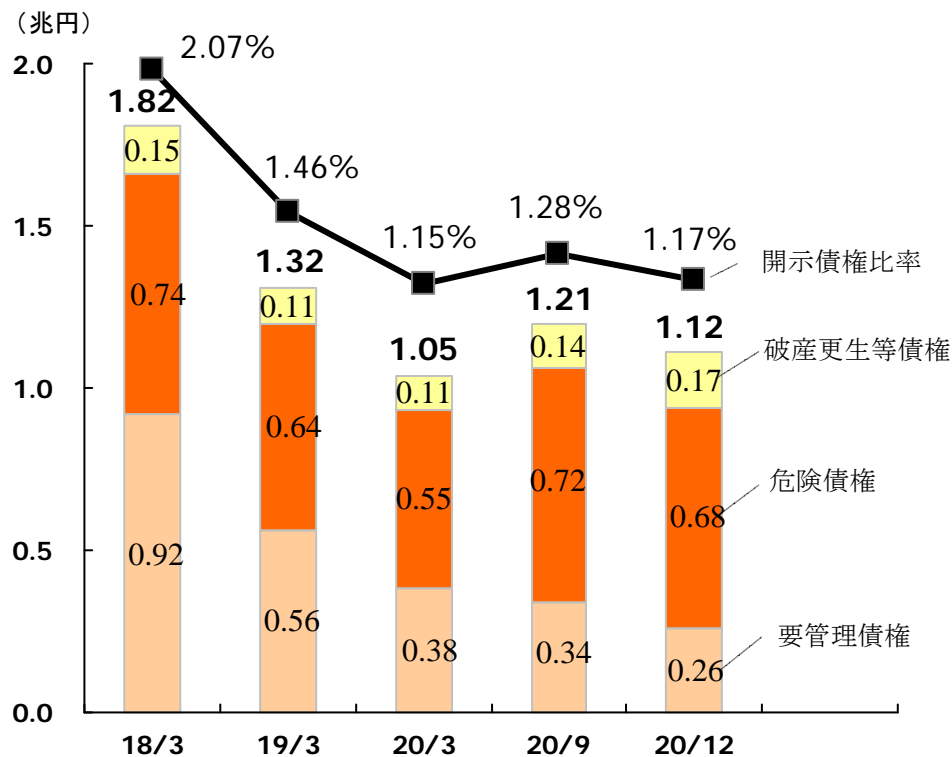
貸出資産の状況

【連結・2行合算】

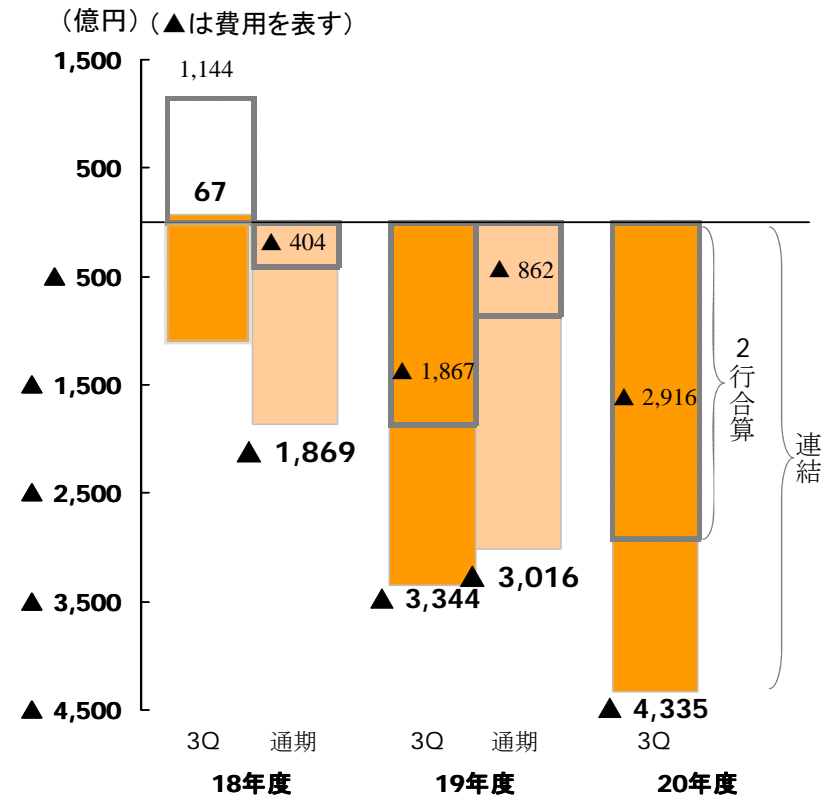


- 危険債権及び要管理債権の減少により、開示債権比率は20/9末比0.11ポイント低下の1.17%
- 与信関係費用は2行合算で2,916億円、連結では4,335億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(2行合算)



連結与信関係費用



保有有価証券の状況

【連結】



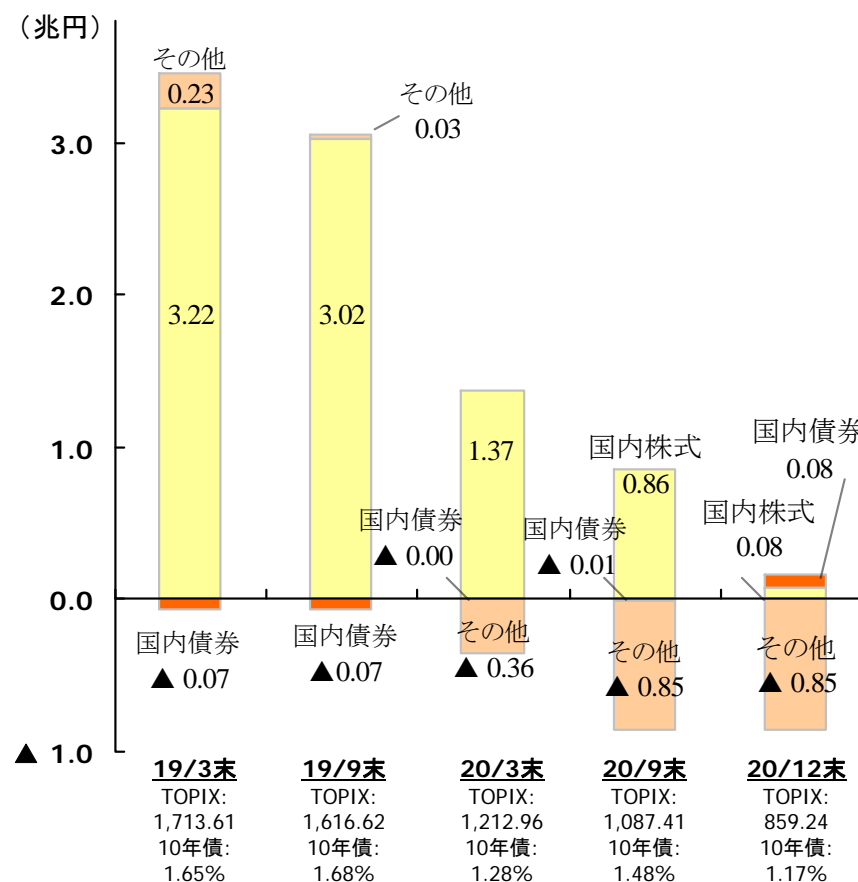
- 国内株式の評価益減少により、その他有価証券全体の評価損益は20/9末比約0.68兆円減少

その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	12月末 残高	評価損益	
			20/9末比増減
合計	400,028	▲6,821	▲6,824
国内株式	40,485	887	▲7,718
国内債券	230,231	828	932
その他	129,311	▲8,538	▲38
外国株式	1,000	▲325	▲595
外国債券	93,325	169	1,197
その他	34,985	▲8,382	▲639

その他有価証券評価損益の推移



保有証券化商品等の状況

【連結】



- 証券化関連商品の残高は約2.6兆円(20/9末比▲0.5兆円)

保有証券化商品の概要(20/12末)

(1) 残高及び評価損益 (億円)

	残高	評価損益		評価 損益率	
		9月末比	9月末比		
1 RMBS	3,600	▲ 1,600	▲ 850	200	▲23.6%
2 うちサブプライム	830	▲ 570	▲ 170	210	▲20.6%
3 CMBS	340	▲ 10	▲ 20	▲10	▲4.5%
4 CLO	18,010	▲2,090	▲ 2,500	890	▲13.9%
5 その他(カード等)	3,960	▲1,160	▲ 810	▲320	▲20.4%
6 CDO	260	▲ 110	▲ 70	0	▲26.2%
7 SIV	0	▲ 30	0	0	0.0%
8 合計	26,180	▲ 5,010	▲ 4,240	770	▲16.2%

(2) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	無格付
9 RMBS	3,040	230	230	20	70	0
10 うちサブプライム	670	90	10	20	50	0
11 CMBS	200	90	40	10	0	0
12 CLO	15,080	950	1,690	240	40	10
13 その他(カード等)	2,340	320	370	890	20	20
14 CDO	120	70	0	10	70	0
15 うちサブプライム	0	0	0	0	0	0
16 SIV	0	0	0	0	0	0
17 合計	20,790	1,660	2,330	1,170	200	30
18 比率	79%	6%	9%	4%	1%	0%

証券化商品

- 証券化商品投資の残高は、償還・売却に加え、為替(円高)による影響もあり、**2.62兆円に減少**(20/9末比▲5,010億円)
- 同評価損益は、**▲4,240億円**(20/9末比770億円)、**評価損益率は▲16.2%**(20/9末比▲0.1ポイント)
- 当第3四半期(4~12月)の損益(P/L)への影響額は、価格下落に伴う減損および売却損を中心に**▲1,790億円の損失**
- **AAA格は約79%**(20/9末 81%)

注1 米GSE等が組成・保証するモーゲージ債・住宅金融支援機構債等の本邦住宅ローン証券化商品、投資信託ファンドで保有している証券化商品は含まず。残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)

注2 企業向けローン証券化商品(CLO)は、当第3四半期決算より評価の精度を高めるため、その一部につき自社における合理的な見積りに基づく合理的に算定された価格により評価
上記の時価算定方法の一部変更による影響額は以下の通り
・平成20年12月末残高が約440億円増加
・平成20年12月末評価損が約2,060億円減少
尚、当第3四半期における損益への影響額は約+440億円

20年度業績／配当金予想

【連結・単体】



【業績予想】

〔連結〕

	第3四半期	20年度通期 (予想)
1 連結経常収益	43,470億円	59,000億円
2 連結経常利益	1,139億円	3,500億円
3 連結当期純利益	▲420億円	500億円

【配当金予想】

	中間配当金	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)
1 普通株式1株当たり 配当金	7円	7円	14円

〔三菱東京UFJ銀行〕

	第3四半期	20年度通期 (予想)
(連結)		
1 経常利益	▲408億円	1,450億円
2 当期純利益	▲209億円	250億円
(単体)		
3 実質業務純益	5,201億円	7,650億円
4 経常利益	▲1,748億円	▲200億円
5 当期純利益	▲2,147億円	▲1,650億円

〔三菱UFJ信託銀行〕

	第3四半期	20年度通期 (予想)
(連結)		
1 経常利益	612億円	750億円
2 当期純利益	301億円	300億円
(単体)		
3 実質業務純益	1,181億円	1,350億円
4 経常利益	589億円	700億円
5 当期純利益	329億円	300億円

■ご参考：

上記利益予想は、20年12月末の株価水準を前提としております。当社は保有株式の減損について四半期洗替法を採用しており、20年度通期の減損処理額は、20年度末における株価により決定されます。したがって、上記予想数値は株価水準等により大きく変動する可能性があります。

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。